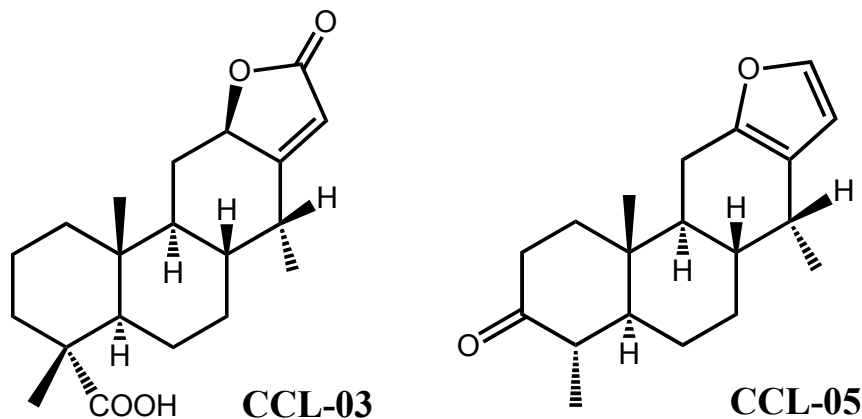


29P-am233

マメ科ナンテンカズラ *Caesalpinia crista* 葉の新規カサン系ジテルペン

姜 東勲¹, ○木下 武司¹ (¹帝京大薬)

【目的及び結果】近年、*Caesalpinia* 属の化学的多様性の解明が急速に進み、フラン環が縮合したカサン系ジテルペンを主とすることが明らかとなった。演者らはシロツブ *Caesalpinia bonduc* 及びナンテンカズラ *C. crista* の成分研究を行ってきたが、これまでに得られたものはいずれもフラン環が五員環ラクトンに酸化された構造を有しており、このタイプのカサン系ジテルペンは現時点でもごく限られる。とりわけナンテンカズラにおいてはこれまで数十種のカサン系ジテルペンが知られているが、五員環ラクトン系を得たのは演者らのグループに限られる。一部の二次代謝物で見られるように、フラン環の一重項酸素による酸化によって比較的容易に得られるので、精製プロセスにおける二次的生成の可能性も否定できない。そこで演者らはナンテンカズラ *C. crista* 葉の各分画を再精査し、フラノカサン系ジテルペンの分離を試みた結果、五員環ラクトン型カサン系ジテルペン CCL03 ならびにノルカサン系ジテルペン CCL05 を得、いずれも文献未記載であった。これらの構造は 2D-NMR の詳細な解析ほか分光学的手法により決定した。



【文献】 Kinoshita et al, Chem. Pharm. Bull., 53, 717 (2005).